



研究部HP



版

第5版 教育研究部 令和2年5月発行

(文責:細井)

～ 強化 ! ～

1 始めに…

「どのように役立つか示さないと人は学習しない」とは、以前参加した講習会で講師の方がおっしゃっていた言葉です。この言葉を少し思い浮かべながら、読み進めてみてください。

2 2つの強化

「強化とは、ある結果事象によって行動の生起率が増えること」ですが、簡単にいうと、「いい結果が起こるとその行動をこれからもするように学習する」となります。

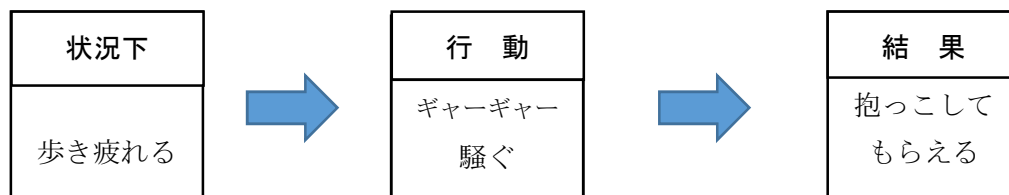
強化は大きくいうと2つあります。「正の強化」と「負の強化」です。どちらも強化なので、結果にいいことが起こりますが、違いは下記の表のようになります。

	追加（環境に何かを加える）、+（プラス）	除く（環境から何かを除く）、－（マイナス）
強化	正の強化（強化子の獲得） 結果→いいこと	負の強化（回避、逃避） 結果→いいこと

では、例を挙げてみましょう。

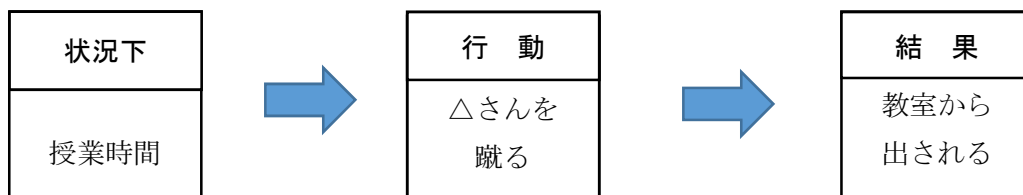
正の強化：○君が歩き疲れてギャーギャー騒ぐと、お父さんに抱っこしてもらえた。すると○君は、歩き疲れるたびにギャーギャー騒ぐようになった。

環境に追加されたもの→抱っこ



負の強化：●君が授業時間に△さんを蹴ったら、先生に教室から出された。その後、●君は△さんをもっと蹴るようになった。

環境から除かれたもの→教室から出された（勉強しなくてよかった）



「テスト前に、100点とったらスマートフォンを買ってあげるといわれ、がんばって勉強して100点を取り、スマートフォンを買ってもらった」「廊下にゴミが落ちていたので拾ってゴミ箱に捨てると先生にほめられた」これらは正の強化になります。



「頭痛がするので薬を飲んだら頭痛がなくなった」「テレビの音量が大きいうるさいのでスイッチをきったら静かになった」これらは負の強化です。

さて、正の強化の例で挙げた「抱っこ」「スマートフォン」「ほめられる」を強化子【きょうかし】（※好子【こうし】など別の言い方をする場合もありますが、ここでは「強化子」で記載していきます）といいます。それらの強化子を獲得するための行動が、正の強化です。

負の強化の例で挙げた「授業」「頭痛」「大音量」などの場面・活動・痛み等から回避や逃避するための行動が、負の強化です。

3 「弱化」というものもある

「強化」とは逆に「弱化」というものがあります。「弱化」は、結果に「わるいこと」「どうでもいいこと」が起こるので、その行動をしないようになります。

	追加（環境に何かを加える）、+（プラス）	除く（環境から何かを除く）、-（マイナス）
弱 化	正の弱化 結果→わるいこと、どうでもいいこと	負の弱化 結果→わるいこと、どうでもいいこと

「してほしくない行動に対して弱化を用いればいいのでは」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、「人間の行動を弱化させるのは難しい」そうです。そして、安易な弱化を図っての対応は、状況を悪化させる可能性を多く含んでいます。なので、弱化については、あえて例等も挙げずにおきます。ただ、結果が「どうでもよいこと」「いいことがない」場合は、その行動はしなくなるということはお覚えておいてください。

4 なぜしないのだろう

教室の雑巾がけをしない子がいます。以前その子が雑巾がけをしているところを見たことがあるので、雑巾がけを知らなかったり、できなかったりする訳ではありません。もしかしたら、雑巾がけをすると疲れる＝わるい結果が起こる（弱化）、なぜ雑巾がけをするのかわからない＝どうでもいいこと（弱化）と思っているのかもしれません。

「雑巾がけをすると、汚れや埃が拭き取れて、教室が清潔にきれいになる」ということが、その子にとってのいい結果となる、すなわち強化子になれば雑巾がけをしてくれるでしょう。しかし、残念ながらそれは、その子にとっての強化子にはならず、雑巾がけをしようとはしませんでした。

では、この場合、強化子をどのように用いればいいのか、どのようなものが強化子となり得るのかなどは、次回の「強化子」にてみていきます。【6月発行第6版に続く】

引用・参考：PECS トレーニングマニュアル第2版

カット：Pics for PECS 第15版（掲載許諾済み）